

The 48th
Kanagawa
Art Exhibition
2012

第 48 回
神 奈 川 県
美 術 展

第 48 回 神 奈 川 県 美 術 展

The 48th Kanagawa Art Exhibition 2012

1期展

[工芸・書・写真] 平成24年9月5日(水)～9月16日(日)

2期展

[平面・立体] 平成24年9月19日(水)～9月30日(日)

会場

神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展

平成24年10月3日(水)～14日(日)

会場

厚木市文化会館展示室

主催

神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール

[指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団]

神奈川県

共催

公益財団法人厚木市文化振興財団

協賛

財団法人はまざん産業文化振興財団

学校法人大塚学院／神奈川県文具事務用品団体連合会

株式会社ニコン

後援

神奈川新聞社／NHK横浜放送局／tvk(テレビ神奈川)

FMヨコハマ

ごあいさつ



今年も皆様から意欲と熱意あふれる多くの作品をご出品いただき、神奈川の芸術文化の力を結集した神奈川県美術展を開催できることを、主催者の一人として大変嬉しく思います。また、本美術展の開催にあたりご尽力いただきました関係の皆様に心からお礼申し上げます。

今年で第48回を迎えるこの美術展は、芸術家を志し、日々研さんを積まれている方はもちろん、神奈川にゆかりのある方ならどなたでも出品できる県内最大規模の公募美術展として親しまれています。

また、この美術展での入賞を機に、多くの方々が全国、そして世界へと羽ばたいていかれた歴史を持つ、国内屈指の美術展です。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門合わせて902点と大変多くの応募がありました。展覧会で展示されている作品は、数多くの力作の中から厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品ばかりです。優れた技と魂のこもった作品の数々を前にし、改めて神奈川に潜在する文化芸術の力を強く実感しました。ご来場の皆様方にも、出品された方々の豊かな感性、優れた芸術性を存分に味わっていただけるものと思います。

文化芸術には、生活に潤いを与え、生きる喜びをもたらし、いのちを輝かせる大きな力があります。

人々が「ここに生まれてよかった」「ここに来てよかった」と実感できる、いのち輝く神奈川。地域の個性が人をひきつける魅力となって、さらなる賑わいを創り出していく神奈川。その実現に向けて、関係の皆様方におかれましては、今後とも文化芸術を通じて一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、このたびご出品くださいました皆様の、創作活動への情熱に対し深く敬意を表しますとともに、皆様のますますのご活躍をお祈りいたしまして、私のごあいさつとさせていただきます。

平成24年9月5日

神奈川県知事 黒岩 祐治



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として、広く県民に親しまれ、また新進作家の登竜門として、これまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに、多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

今年の第48回展では、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に703人、902点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、378人、381点の作品が選ばれました。今年も、多くの方にご応募いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

この神奈川県の文化、風土は、先人たちの長い創造の時間によってつくりあげられてきました。人が美術作品を創造する時間というものは、人生をつくりあげていく大切な時間でもあると思います。ご応募いただいた全ての皆様の制作にのぞんだ多くの時間、さまざまな想いに敬意を表したいと思います。そして、これからもこの県美術展において、盛んな切磋琢磨、交流が行われ、新たな時代を切り開く美術作品が生まれることを祈念いたします。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、県美術展の運営に関し専門的な立場からご助言をいただいた県美術展委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、特段のご支援を賜りました財団法人はまぎん産業文化振興財団様、さらに、各賞を賜りました学校法人大塚学院様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコン様、そのほか関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成24年9月5日

神奈川県美術展委員会委員長 酒井 忠康

1期展

工芸・書・写真

受賞作品目録

工芸

大賞	小泉 昌浩	秦野市	Catastrophe	ガラス
準大賞	神田ミユキ	横浜市	蝕（6個組）	陶・漆
特選	大原 乾資	横浜市	藍の板締染	染
特選	有川 雅裕	葉山町	切貝十角箱「Eclipse」	漆芸
奨励賞	藤森 京子	横浜市	日々	裁縫
美術奨学会記念賞	浅沼麻衣子	相模原市	浸透（6個組）	ガラス
美術奨学会記念賞	山本貴美子	横浜市	Battle field	陶芸
大塚学院賞	渡邊 沙織	横浜市	誘われて	染織・着物

書

大賞	喜多 光蓮	横浜市	万葉のうた
準大賞	鶴岡 慎舟	横浜市	贈王生二首 其一
特選	堤 智子	横浜市	露玉は珠玉（自作）
特選	小島 慎哉	平塚市	篆書七言聯
奨励賞	猪野 公一	川崎市	九皋鳴雀
美術奨学会記念賞	水川 芳竹	海老名市	壯氣毅然
美術奨学会記念賞	村上 湖翠	海老名市	秋の蟬
県文具事務用品団体連合会賞	渡辺 和子	相模原市	巒

写真

大賞	米山 好人	横浜市	山間の街
準大賞	西沢一比古	横浜市	宇宙人現わる
特選	小島 満男	川崎市	工場街寸景
特選	五十嵐 航	秦野市	ビルマ・少数民族の祈り（3枚組）
特選	安齋 歩見	横浜市	ピーナッツ戦争 #28（2枚組）
奨励賞	星崎 裕基	小田原市	静かな日常（3枚組）
美術奨学会記念賞	佐藤 忠	横須賀市	再生資源
美術奨学会記念賞	福田 健士	川崎市	渡河／帰郷（3枚組）
ニコン賞	新城 英一	伊勢原市	北の金環蝕

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創設された賞です。

※大塚学院賞は、学校法人大塚学院から工芸部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※神奈川県文具事務用品団体連合会賞は、神奈川県文具事務用品団体連合会から書部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※ニコン賞は、株式会社ニコンから写真部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

入選作品目録

工芸

花見 昌道	シンボル
今井 信二	鉄絵銅彩冬枯図面取壺
望月 汎岳	鎌倉彫(稻文箱)
玉川 哲也	一輪
田中 秀男	黒の魅惑(凧)
辰井 康雄	彩泥杉綾文花入 彩泥線象嵌花器
秋山 泰宏	宙
マーナ美恵子	Ocean Blue
深水 邦彦	備前水指(A)
安彦 晴華	もえいづるもの(3個組)
清水 忠雄	月見花入
志賀 邦範	光の器 852(三日月)
上野 弘子	年輪(10個組)
小島 也実	Soleil
浅井 祥子	手紡ぎ敷物ー秋ー
藤本 靜夫	つぼみ 2012 a
沖 知江子	跡の器
藤田 慎治	葡萄紋平鉢
森岡由記子	祈りーその2(千手観音像)
金井 裕子	with a will(7個組)
川泉 孝一	天目釉白彩鉢
松崎 峰夫	陰刻紫陽花文皿「明月院」
関水 美穂	Fragilaria
高橋 えり	自由な皮膚
今林三恵子	2011年こどもたち子供たち
吉荒 一馬	窯変朝鮮唐津深鉢
三浦 静香	移る
フジサワミカ	彩磁練込陶板ーハワイの空と海ー
菊地原裕基	Meth Melancholic
高野源太郎	磁器染付組皿・赤い実(5枚組)
川島 真鶴	添う(2個組)
高橋 英昭	土のかたち
田中 ちか	花山
深野 怜	色絵皿「初夏の里山」
金子 明子	マース

※掲載は出品者番号順です。

伊藤 和弘 花入

藤田貴世美	能土蜘蛛 全て手縫い作品
宮川香代子	包
菅野 まり	焼き縮め 大皿
石橋 伸一	UFO
近藤 純子	連鎖する形 アイノハナ
大野 澄子	うず潮
大石 陸平	紅葉
小野 次雄	乾漆菊型食籠
森 玲子	群碧(3個組)
中山 愛子	春の萌し
岡田 光子	湧
高橋 里子	勇気凛凛
平野 実	茜
百田 輝	彩陶黒文壺
生頬美砂恵	混沌の中で(2個組)
佐藤雅一郎	対州 若田硯(ことぶき)
樋澤 一明	泥漿ランプ
佐藤 一彦	復興への思い(不安と喜び)
福田 典子	泰山木
渡部 裕子	宙吹き グラール彩 鉢 「クレマチス」
本間さわ子	IN THE MAUVE
西山 義彦	輪花魚文櫛目鉢
村田 真樹	レクイエムーⅢ
新田 五月	ココカラ
田村 萌子	浮遊する記憶
山本 紀子	海芋
菊池 保裕	蝶葬大日図 蝶葬阿弥陀図
大貫 路子	音の実 音の花
小林 忠生	波紋
大西 千穂	奏でる景色は
山口満里子	宙
小室 千春	覆ーくつながえる
山本 朋子	TREE
藤原 稔	家族の絆
山㟢 直子	魚文搔き落し大皿
りなした陽子	Free Fall

書

池上 恵峰	夏の海には
鈴木 良子	音羽山 他3枚
浅間 静江	相模国風土記
木下 清華	我がやどの(大伴家持の歌二首)
西村富美子	三十六人選
井上 春苑	杜審言詩
川手 敏湖	小倉百人一首
大庭 香舟	王昌齡詩
中山 壽香	玉華宮
上村 泊舟	別湛甘泉
佐藤 清紫	題畫
横山 聖水	香山寺月夜
橋本 紫柳	雜詩其一
奈良 静桜	夜半。録別其一。二首
柿沼 芳秋	早發遂溪道中
柿沼 柏苑	秋日雜詠
高木 香葉	月夜坐憶
松田 栖舟	解組歸隨園・釣台二首
小松 公子	かぎりなき
四季 茜歩	古都を想う
藤倉 汀雪	心清意自閑
小磯 栄芳	許渾詩
森崎 愛芳	劉基詩
渡部 祥優	包佶詩
高橋 暢芳	題畫
中山 見瑞	隨宮
島村 秀芳	李白詩
杉村 莊雲	李白詩
黒川 鶴翠	郭鈺詩
重田 鶴耀	張九齡詩
茅野 秀苑	秋風
阿久津梓苑	春のうた三首
三橋 和泉	陶潛詩
三谷 嶽雨	五言排律
宮川 昌翠	春城曲
徳原 玉萩	五言二句

※掲載は出品者番号順です。

石黒 雅彦	五言二句
松村美奈子	澄觀
増田 敬子	清逸
平林 幸子	源氏
川名 啓心	李太白詩 江上吟
中澤 春雪	和歌三首
山口 大夢	方朝詩
中村 霽澄	ほととぎす
豊田 紫英	大海
柘植 淩如	三吉野の
吉田 翠鶴	臨 一條摂政集
棧敷 東煌	鹿の聲
小林 千幸	翡翠の風 滑る(自作)
工藤 静泉	谷川俊太郎詩 ひとりぼっち
馬場 虹苑	与謝野晶子の歌 鳥の巣
柴本 華雪	ネットの中の詩人サユの詩 夏の恩恵
上野 春海	ゆりかごの時間(野村玉江の詩)
福本 泰子	バラの咲く庭 城井雨咲の詩
相馬 澄月	蒼い響き
阿座上純子	夕焼小焼
平船 清流	鷹ヶ峰
本間 琴秀	後ろ姿
深瀬 秀苑	まちのあかねの詩 春のアルル
松尾 純子	梅村紅月の詩 白い華
竹内めぐみ	高橋伸子の詩 黄昏
川崎 純子	石井久美の詩
竹内絵里子	柄木郁子の詩 むらさきつゆくさ
松田 紀子	(自作)コスモスに君の横顔
日守 鍊	願い
竹内千恵子	柄木郁子の詩 光の帶 遙か
大木 明子	輪廻転生(自作)
中山 政子	陽が落ちる港(自作)
福永富砂子	影の響演(自作)
山本 清子	香川翠瑛の詩 古代蓮
石井 久美	恵美子の詩 星のない東京
水本 知葉	妙法蓮華經授記品第六

河又世津子	いつの日の
相根 恒舟	なにとなく
加藤 美和	秋の夕暮れ
榎本 蘭芳	小倉百人一首
横山 弘子	あさばらけ
鈴木 美賀	春の山風
坂東由美子	良寛の歌
吉田 房世	香紙切 臨
園田 博子	流星
大坪 万里	あいつの口笛
武田 瞳処	張均詩
川上 麗有	李白詩
神立 佳子	汪廣洋詩
米澤 千松	白い花
片岡 雪燐	釋大典詩
生駒 蘭嵩	郭第詩
阿部 馨月	恋歌
武 啓茜	ほととぎす
下門 芳子	水
佐々木永隆	青葉
小嶋 直子	ひぐらしの声
河田 和代	川風の
池田 莊春	月夜坐湖水
鈴木 天鳴	秋夕
神谷 聖庭	暮景
小山 莊雪	登多景樓
渋谷 莊江	秋景 林文詩
野頭 莊雲	早發錢塘
浅野 堯慎	蘇東坡詩 新城陳氏園次晁補之韻
鈴木 静耕	遇僊橋即事
神山 紅雲	文徵明詩二首
小林 堯霞	張均詩 岳陽晚景
片岡 稲處	蘇東坡詩
前橋 成元	冬日湖邨即事
西澤 蒼海	王漁洋詩 真州絕句三首
大沼 春美	朱存理詩 七言二句

浦 堯秀	入山寄城中故人－王維－
片岡 巖山	禪堂
鯉沼 紫虹	吳七雲詩
平田 紫穂	述懷
渡辺 紫香	姚廣孝詩
柿澤 貞凜	桃花源記
安地 翠石	藍仁詩
猪俣貴美枝	賈島詩
根岸 玲香	劉禹錫詩
舟田 春露	劉嗣綰詩
中田 早苗	玲瓏
猪野 光舟	不遠復
安部 大巖	磨而不磷
四壁 透	知足常樂

※掲載は出品者番号順です。

写真

城 忠敬	夜明の序曲
大久保武人	夕暮れに
中山洋之助	増す無縁(3枚組)
小松 智視	みつめていたい
鶴賀奈穂乃	4歳の視界
大久保忠宏	ご機嫌なまめ
栗原 茂	梅雨気配
江頭 良弘	春光に輝く
田中 洋一	湘南雪景色(3枚組)
渡部 満	PRIORITY SEAT(3枚組)
大出 光信	戦痕(3枚組)
岩崎 茂樹	異界の使わしめ(3枚組)
商 家訓	鎮魂譜(3枚組)
清水 治弘	薄氷風情(3枚組)
漆原 利大	残形(3枚組)
山下 竹二	昼下がり
竹田 宏司	front(3枚組)
鈴木 末雄	イマジン
山脇 瞽	夏の日の思い出
羽鳥 博隆	鳥免匆匆(3枚組)
金親 敏雄	刻の部屋(3枚組)
河村 伴江	開けてよ～!!(3枚組)
宮木沙知子	空間知覚(3枚組)
遠藤 丈	つばさがあれば(3枚組)
津田 祥夫	神奈川宿小安浜・今(3枚組)
鈴木喜三郎	諸のヒロイン
金子 正隆	開かな～い!
木所 栄一	街角寸景Ⅱ(3枚組)
奥田 恭子	アンテロープキャニオン(2枚組)
稻葉 幸久	夢想幻園saru sari Nungil
山室 初代	舞う
多田 正司	アニマル(3枚組)
小山 仁	躍動
渡辺 岳子	昼さがりのサンタフェ
井澤 孝浩	花の陰翳と趣(3枚組)
山田 竜也	境界

小沼 公子	冬の津軽(3枚組)
土谷 尚雄	少年(3枚組)
関本 鶴	ネムラズヤスマズ(3枚組)
小倉 直美	学校帰り
小倉 敬夫	変貌する街(3枚組)
竜崎 浩	津波の傷跡(2012年夏)(3枚組)
小高 紘佑	働く(3枚組)
鈴木 元彦	ロンシャンの礼拝堂
大槻 操	無人駅の主(3枚組)

※掲載は出品者番号順です。

工芸

富田 康子

工芸部門は、陶芸や染織、漆芸など多岐にわたる技法を含んでいいるだけでなく、表現の方向性が多様である点に、審査の難しさがある。技術に対する考え方ひとつとっても、習熟度を重視するか、技法面での実験精神や、その新鮮さを評価するか、というように、相反する問題が浮上する。そのなかで、審査員は、作家の考えを推測しながら話し合いを繰り返し、できるだけ正しく作品を理解するよう努めている。

今回は、昨年に比べて出品作品が40点ほど少なかつたこともあり、結果として、1点1点をじっくりと見ることができた。上記のような問題についても、審査員どうしで深く議論することができ、そうしたなかで、昨年以上に、表現性の高い作品、つまり、作り手の「こうしたい」「こういう作品にしたい」という意思がはっきりと伝わる作品に関心が集ったように思う。

以下に、受賞作品について簡略ながら触れておく。

大賞作品の小泉昌浩《Catastrophe》は、積層ガラスを幾何形体に整えたシンプルな形状の作品。落ち着いた形のなかに、ある種の風格を感じられ、審査員全員から大賞に推す声が上がった。内部にふわりと散らされた、雲のような色ガラスが、作品の透明性を引き立てるだけでなく、形状の単調さを補う役割を帯びて、視覚的な魅力を増大させている。物質そのものがもつ力を作家の技量によって美的にまとめ上げた点は、工芸ならではの造形性として、おおいに評価に値すると思う。

準大賞の神田ミユキ《蝕》は、器を思わせる半球型の陶造形。黒い描線は、表面に深く食い込み、独特の質感を作り出している。線と面とが侵蝕し合う複雑な造形性は、一見すると器のようでありながら、単なる器を超えて、現代の様々な事象のメタファーのようでもあり、興味をそそられた。

特選の大原乾資《藍の板締染》、有川雅裕《切貝十角箱 [Eclipse]》は、いずれも、安定した技術が生み出す、確かな造形性が魅力。リズミカルな文様も、技法上の必然性と結びついていて、気持ちがよい。同種の美感は、大塚学院賞の渡邊沙織《誘われて》にも通じている。

なお、特選候補として、最後まで議論の対象となった作品に、小野次雄《乾漆菊型食籠》がある。こちらも、見る側の気持ちを安定させるような堅実な造形性と、それを裏づける高い技術が印象に残った。

奨励賞の藤森京子《日々》は、じつは、志賀邦範《光の器852(三日月)》と賞を競った作品。ともに、丹念な手作業の繰り返しに溌漫がある。その繰り返しの中に、ひねりというか変則性があり、のびやかな魅力をともなっているという点で、今回は《日々》を奨励賞としたが、どちらの作者も、手仕事による密度高い造形的魅力を、これからも推し進めて、いっそう存在感を増した作品を作り上げていただきたい。

美術奨学会記念賞2点は、今回、今後の可能性を感じさせる作品という基準で選出した。浅沼麻衣子《浸透》は、おそらく、制作途上で作者が見出した意外なガラスの表情や、思いがけない素材の性質が、モティーフ(制作の動機)となった作品なのではないだろうか。「見つけた」という作者の心の弾みが伝わってくるような、いきいきとした造形性に、複数の審査員から共感の声があがった作品である。ここに表された作者の「発見」が、今後、この作者に大きなものをもたらしてくれることを期待したい。山本貴美子《Battle field》は、近年よく見かけるデコレーション手法による陶造形であるが、モニュメンタルな形態をとらず、何かの道具を無造作に置いたかのような形態をとったところに面白みがある。作者が意図しているのかどうかはわからないが、装飾に対するアイロニカルな視点が感じられる。

以上が、受賞作品である。あとから確認したところによると、受賞作は、30歳代、40歳代という、若年から中堅といえる年代からの出品作品が多かったとのこと。偶然の結果ではあるが、これが、年代の問題ではなく、作品の内容にかかわる問題であってくれば嬉しいと思う。つまり、意欲的な作品、挑戦的な作品を受け止める場として、この神奈川県美術展が機能できたのならば、審査員としては大きな喜びである。

去年に続き第48回神奈川県美術展の選衡の任に当たらせて頂いた。

本展から、審査員が7名から5名に減員されたことを窺って、応募数の減少が気になるところであったが、やはり、その影響であろうか、176点と去年に比べて37点の減少をみた。その外、以前から言われているところだが、この時期、書道界は新聞社主催の大型公募展が目白押しで、書壇夏の陣といわれる程の繁忙期である。そのため、各公募展への応募者は制作期が輻湊していて、出品したくてもそのことが躊躇させる要因の一つといわれている。しかし、神奈川県在住の人にとって県美術展は地域に密着した美術展である。こぞって協力すべきだと思うのだが、妙案はないものであろうか。

さて、今回の審査も昨年同様、初めに全作品を通覧し、5名の審査員が1点から5点までの持ち札で各作品を評価し、130点の入選作を選出した。次いで各賞の選衡に移ったが、受賞作は展覧会の質を計るバロメーターである。選衡には慎重を期し、16点以上の評価全作品を改めて見直し、5人の審査員の見解を交えて27点の作品を選出、ここから更に8点の受賞作を決定した。

各部門の応募作品を見て思ったのは、質的な格差が感じられたことであったが、その中でもかな作品の水準の高さが突出していた。大賞、準大賞、特選作は質的評価の高い作品を対象とされるのは当然であるが、奨励賞は若年層の督励の意味をもつて選考に配慮がなされた。

因に、今展の応募最高齢者は92歳、最若年者は18歳、何れも女性であった。

大賞・喜多光蓮 《万葉のうた》 枠型料紙17枚に寸松庵色紙風の散らしを見せて、韻致高い作とした、洗練された筆致は誠に雅趣に溢れ香氣漂う。

準大賞・鶴岡慎舟 《贈王生二首・其一》 躍動する書様は老練にして沈潜、完成度も高い。筆跡に人柄が投

影されているようだ。

特選・堤智子 《露玉は珠玉》 構成主体の作調が多い詩文書の中、筆力で魅せる作とは何とも頼もししい。唯、落款風に入れた《露玉は珠玉》は行儀のよい等間隔で少々甘くしたようだ。

特選・小島慎哉 《篆書七言聯》 悠揚とした作風は中鋒の技法に忠実で、品格さえ備えている。センスの良さを窺わせる作だ。

奨励賞・猪野公一 《九皋鳴雀》 布字も確に正統な刻法で好感ある作とした。近年、戯に衝刀を見せて古格を装う風潮があるが、この正統的作調は清々しい。

県文具事務用品団体連合会賞・渡辺和子 《懸》 一気呵成の運筆ながら、気脈を十分に貫通させた充実の作。墨法も亦効果的。

美術奨学会記念賞・水川芳竹 《壯氣毅然》 満々の闘志を秘めて霸氣紙面に満つ。筆勢に気概を込めて、然も微塵も気を衒うところなし、

美術奨学会記念賞・村上湖翠 《秋の蝉》 閑達自在な運筆は才腕ぶりである。主題もよく昇華されていて、情趣漂う世界を演出している。

カメラを持てば、とりあえず誰でもはじめることができるのは、写真表現の魅力であり、大きな特徴もあります。これは、従来の枠組みにしばられない表現が生まれる可能性がある一方で、ひとりよがりの表現に陥る可能性が高いということでもあります。

デジタルカメラの普及で、これらの魅力や特徴は、さらに拡張されたといえるでしょう。そして、そのことをよく浮かび上がらせていたのが、今回の応募作品であったように思われます。つまり、身近にカメラと写真を楽しんでいることが伺われる一方で、何をどう撮るのか、どのように仕上げてプリントするのか、迷われている方も少なくないように感じました。

特に気になったのが、画像調整などをやりすぎてしまっている作品です。簡単に画像調整ができるデジタルでは、自分の好みを追求していると、どうしても目が慣れていって、いじりすぎてしまう傾向があるのです。

そうならないようにするために効果的なのは、やはり回り道になってしまっても、まずは基本に忠実にやってみることです。ノーマルな露出、色、コントラストで、ノーマルにプリントし、それをベースに調整することを心がけるのがよいでしょう。あるいは、写真集、写真展などで、質の高い写真表現にたくさん触れるのも効果的です。

このようなことを踏まえて、受賞作の、作り手だけでなく、受け手を刺激し、満足させる魅力に触れてみましょう。何でもない光景であるがゆえに、じっくり見る楽しみがある、大賞の《山間の街》。ありふれた光景からシユールな作品を作った、準大賞《宇宙人現わる》。この2作品は、最後まで大賞を競い合いましたが、どちらもけっして珍しいモチーフではないのが、興味深いところです。

圧縮効果を生かし、幾何学的パターンを強調した《工場街寸景》。身近な素材で、ユーモラスな世界を作った《ピーナッツ戦争#28》、オーソドックスながら、力強いドキュメント《ビルマ・少数民族の祈り》。特選は狙いが明確な、これら3作品となりました。

奨励賞は、身の回りから映像的な世界を見出した《静かな日常》。美術奨学会記念賞は、さまざまな意味が凝縮したモチーフをストレートにとらえた《再生資源》、モノクロ表現に叙情を込めた《渡河/帰郷》。ニコン賞は、具象と抽象が交錯した《北の金環蝋》。

受賞作、入選作を見ていると、写真表現の厚みと広がりが感じられます。本展のような公募展への応募は、それを感じつつ、自分の表現を客観的に見つめ直す、よい機会にもなるでしょう。来年も多くの方にチャレンジして頂きたいと思いますが、その際のヒントを、最後にひとつ付け加えておきたいと思います。

タイトルは、思いのほか重要です。単純すぎても、ひねりすぎても、つまらなくなってしまうことが多いものです。応募の際には、ぜひ、作品の世界を膨らませるようなタイトルを考えてみてください。



大賞

Catastrophe ／ 小泉 昌浩

ガラス 24 × 30 × 19cm 32kg

[略歴] 1970年 秦野市生まれ
2011年～ 秦野美術協会 会員

[入賞歴] 2009年 神奈川県美術展 美術奨学会賞
2012年 秦野美術協会展 秦野市長賞



準大賞

蝕 (6個組) / 神田 ミユキ

陶器 33×33×15cm × 6個 約30kg

【略歴】

広島生まれ。

2000年 独学で作陶をはじめる。

2002年 横浜に工房・窯を開く。

2005年 二人展「土に遊び・炎にたくす」開催／銀座小野画廊

2006年 栃木県佐野市飛駒に穴窯「風花窯」を築窯（現在閉窯）

個展「ぬくもり」開催／銀座小野画廊

光文社発行女性誌「STORY」掲載

【展覧会歴】

2007年 個展「初夏の風」開催／ギャラリー一楽（横浜）

2008年 個展「風感」開催／表参道アルスギャラリー

2010年 個展「black & white…」開催／DFギャラリー原宿

2011年 個展「cups」開催／みなどみらい Brillia short shorts シアター

企画展 Heart Art Communication in TOKYO2011 出品／国立新美術館

企画展 Heart Art Communication in ROME2011 出品・日伊芸術交流貢献賞受賞

／イタリア・ローマ フォリインペリアーリ博物館

2012年 グループ展 H.A.C 展 VOL.7 出品／青山セピア絵画館

二人展「土と肖像の青」（陶と絵画のコラボ展）開催／DFギャラリー

企画展 Heart Art Communication in 金沢 出品／金沢21世紀美術館

企画展 日セ交流「ひかり展」出品／セルビア・ベオグラード国立美術館

美術年鑑現代美術部門掲載



特選

藍の板締染／大原 乾資
麻布 245 × 171cm



特選

切貝十角箱「Eclipse」／有川 雅裕
桐、漆、鮑貝、金箔 30 × 31.5 × 8cm 0.844kg



奨励賞

日々／藤森 京子

和紙、糸、ガラス 50 × 105cm 0.4kg



美術奨学会記念賞

浸透（6個組）／浅沼 麻衣子
ガラス 45 × 60cm 2.1kg



美術奨学会記念賞

Battle field ／ 山本 貴美子

陶土 70 × 20 × 10cm 3kg



大塚学院賞

誘われて ／ 渡邊 沙織

着物 絹 30 × 150 × 170cm 15kg



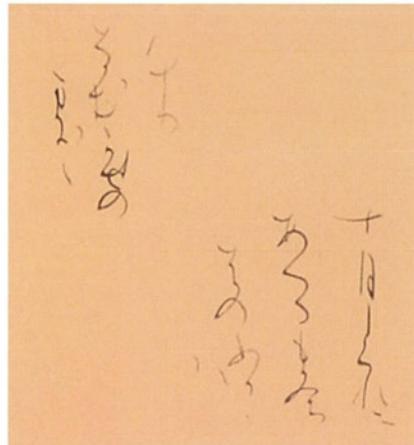
大賞

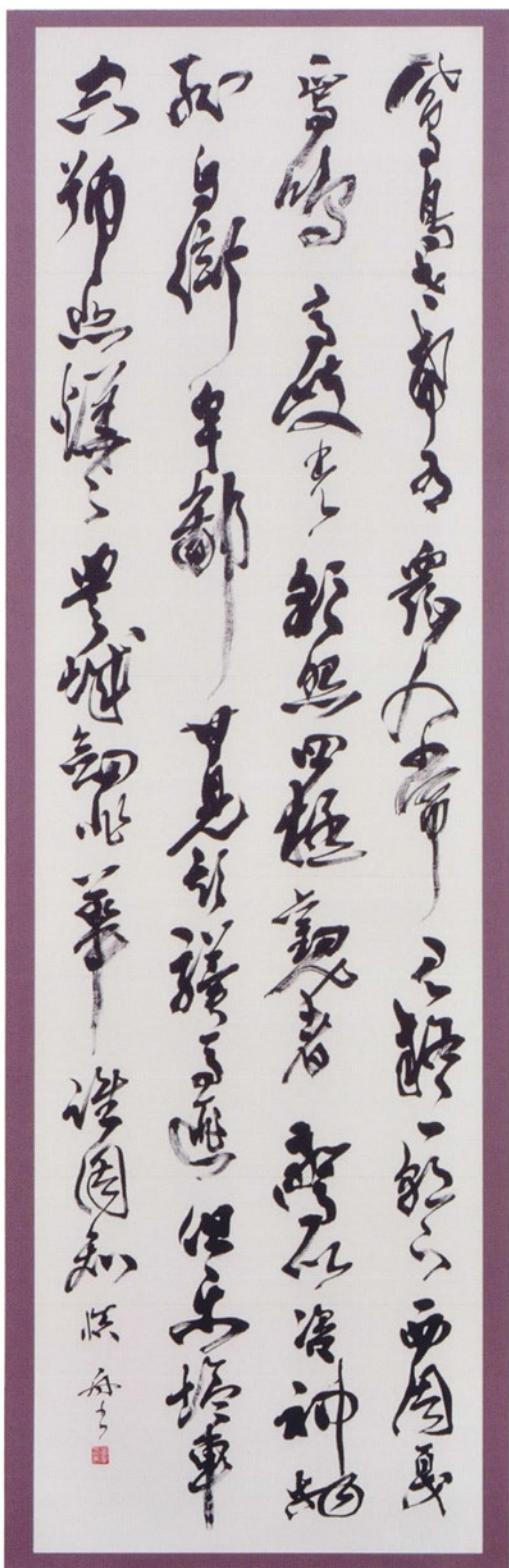
万葉のうた／喜多 光蓮

61×182cm

[略歴] 1947年 福岡県生まれ

[現在] 読売書法会評議員
日本書芸院 二科審査会員
書道草心会 理事 阪本千秋に師事





準大賞

贈王生二首 其一／鶴岡 慎舟

182 × 61cm

[略歴] 1941年 横浜に生まれる

[入賞歴] 2005年 神奈川県美術展 特選
毎日書道展 每日賞 1回
秀作賞 3回
佳作賞 1回

[現在] 芳林書道院 所属



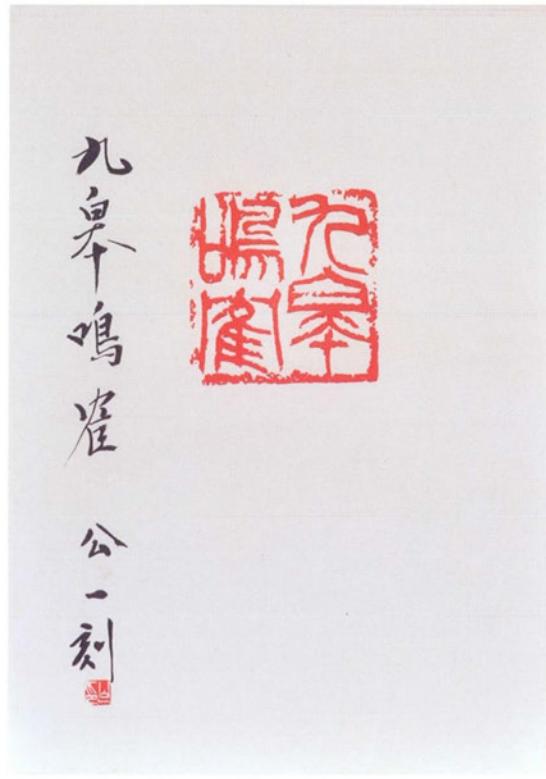
特選

露玉は珠玉／堤 智子
182 × 61cm



特選

篆書七言聯／小島 慎哉
182 × 61cm

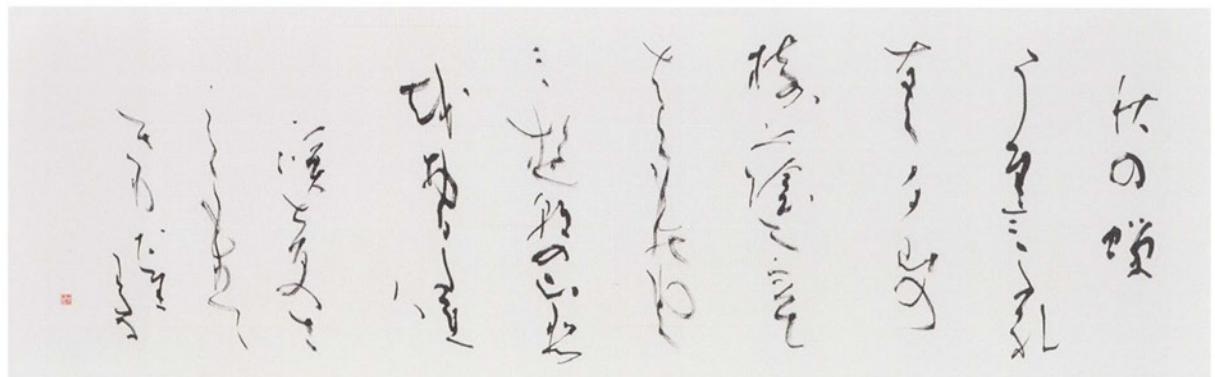


獎励賞

九皋鳴雀／猪野 公一
39 × 30cm



美術奨学会記念賞
壯氣毅然／水川 芳竹
121 × 91cm



美術奨学会記念賞
秋の蝉／村上 湖翠
61×182cm



県文具事務用品団体連合会賞
轡／渡辺 和子
121×91cm



大賞

山間の街／米山 好人

〔略歴〕 1963年 東京生まれ

写真創作活動は5年前より

エンジニアとしての仕事の傍ら、週末写真家を目指す

作品発表は、1x.com, GANREFなどのインターネット空間

オールドレンズを生かした写真表現を探求すべく、澤村徹氏に師事

〔入賞歴〕 1x.com (1x.com/photos#!/artist/mateko/photos)

その他多数

写真展開催 2008年「デリーの野良たち」



準大賞

宇宙人現わる／西沢 一比古

[略歴]	1937年 東京都生まれ 1971年 写真を始める 1996年 国際文化カレッジ・写真講座受講 1996～98年 横浜市内の写真クラブに入会 2009年 デジタル写真を始める
------	---

[入賞歴]	2002～4年 日本フォトコンテスト誌月例白黒写真の部 特選4回、入選7回 2004～9年 神奈川報道写真公募展 特選4回 2004年 第60回ハマ展 アサヒカメラ賞 2009年 第45回神奈川県美術展 ニコン賞
-------	---



特選
工場街寸景／小島 満男

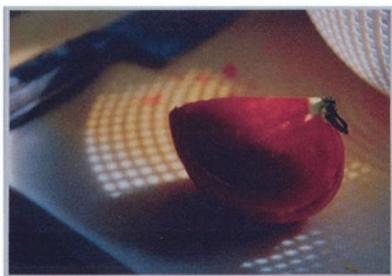


特選
ビルマ・少数民族の祈り（3枚組）／五十嵐 航



特選

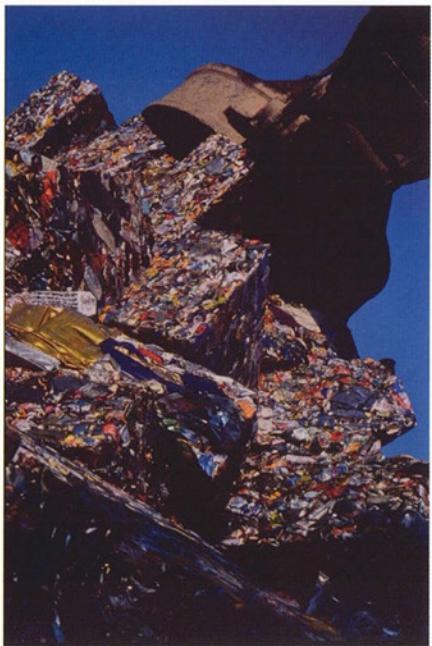
ピーナツ戦争 #28 (2枚組) / 安齋 歩見



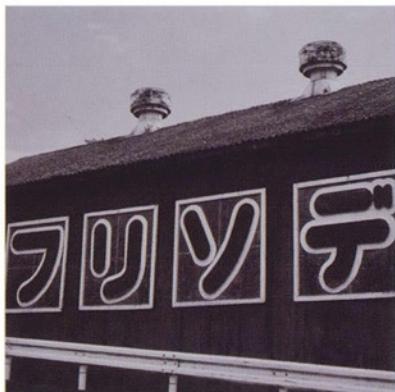
奨励賞

静かな日常 (3枚組) / 星崎 裕基

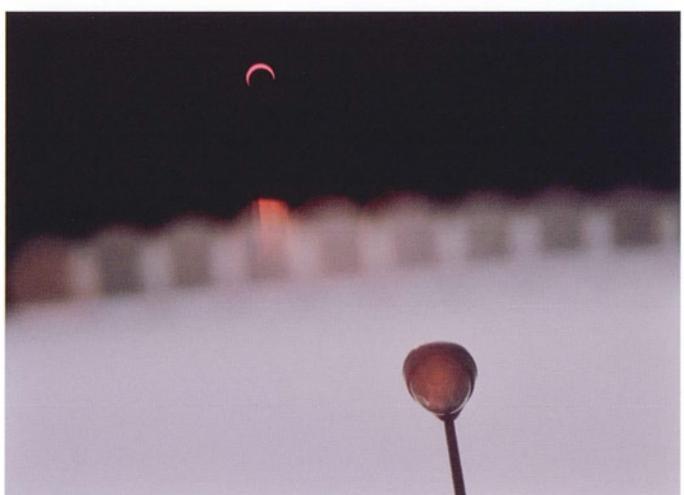
写真



美術奨学会記念賞
再生資源／佐藤 忠



美術奨学会記念賞
渡河／帰郷（3枚組）／福田 健士



ニコン賞
北の金環蝕／新城 英一

| 2 期展
平面立体

受賞作品目録

平面立体

大賞	西野由璃子	横浜市	永劫	平面
準大賞	佐藤岐夜美	横浜市	想像妊娠	平面
特選	大石 雪野	大和市	woman	立体
特選	名村 怜	東京都	gravity	平面
美術奨学会記念賞	原 佳史	相模原市	点に向かう線	立体
奨励賞	中西瑛理香	横浜市	Light Houses	平面
県立近代美術館賞	箕輪香名子	横浜市	treasure hunting 2012-1	平面
はまぎん財団賞	長谷川 大	藤沢市	ひかりのにわ	平面
県議会議長賞	新恵美佐子	横須賀市	花	平面

※県立近代美術館賞は、県立近代美術館による神奈川県美術展に出品された優秀作品の買い上げ賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創設された賞です。

※はまぎん財団賞は、財団法人はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※県議会議長賞は、県議会議長から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

入選作品目録

平面

和田 健二	crazy apartment house
東條 貞夫	輪廻転生～被災した全ての人へ～
桜井 敬子	風景の記 II
蒲田 宏	金環日蝕の観察
井口 信	何にだってなれる、何者にもなれない
大塚とみ子	響き
若宮 眞子	水上の詩
大矢 雅章	A Priori Towane 11-3
飯島 洋子	時の過ぎるまま
茂野 生世	Prologue
加藤 力	流象
白石 武市	小鳥、枝から枝
飯村 優介	スイジンー象 II
美濃 寿則	望 IV
片岡 次郎	気化思考
田中 敬子	舞い降りる
小泉 千織	keep out
古石 紫織	行きつ 戻りつ
岡本ヒロシ	ゆめのきおく(II)
帆足枝里子	白痕
宮川美都子	秋照
秋元サヨ子	君は見ていた(I)
岩瀬 哲夫	吠える
鈴木 由希	ハメルンの音楽隊
一ノ木タツミ	青とオレンジの幻影
滋田 明	赤い花と魚
細川 貴子	夏の夢
原 透	特異点のある時空
渡辺 愛子	山のひと
山脇 勇大	Preparation
熊谷 直人	森
飯田 悠希	アフリカの街角
佐々木房子	かなたへ...
野口 智弘	相剋御玉
田中 みえ	おばちゃんがくれた
福岡しの野	time keeper

※掲載は出品者番号順です。

阿部 和樹	水景
EMILY MILLER	Glow
小林孝一郎	Japanese
小野島夏子	時の宿る所
矢嶋 和博	毬子
井上 洋介	家守
坂本 健一	人物の背中
星 きさら	いつか忘れる日曜日
木村 真彦	ナビゲーター II
三浦 敬子	チェスキークロムロフのおもいで
平川二三男	壁 2011.3
藤原 浩司	ヒマラヤ杉の種子12,000個集めてみた
佐藤 英行	生命
川崎 恵理	華炎－水精(2枚組)
久保田 潤	水浴図
渡辺 幸子	影 I
阿部 智子	いつか恐竜の来るB(Biotop)
平林 英一	いつでも空を
横山 孝司	作品A
清水 太朗	YOKOHAMA
龜山 治代	映 I
金子健一郎	SUPER Cell
浅井敬一郎	毀れた舫い
田鷗 佳子	「OK」への道
菊池 忍円	Innistreeへ
河瀬 磨未	ultra blue
片山知香子	いつかの空に咲いた花
榎谷 杏子	埋もれ、消えゆく
石河 靖子	風景(トンボ)
西村 有	ハイキングコース
安田 文夫	「団地妻」むかしは皆きれいだった(3枚組)
勝山 治実	ツガル
西野 和男	稽古場で II
加藤 覚	スカイツリーの見える交差点
金子 透	ESPACE(空間)
渡辺 佑基	ぶられーる

入選作品目録

茂野あきこ	白を紡ぐ(Ⅰ)
手賀 彩夏	チョコレート中毒
中山 智介	白い時から Ⅰ
澤田 サチ	刻のうつろい(Ⅰ)
福井 幸雄	流れる Ⅰ
芥川 玲奈	次元上昇
六島 芳朗	春の庭
葉山たみ子	時の風音 Ⅰ
加藤 哲郎	流
横山 瑛子	太古に煌めく
玉置 清明	森の伝説
広瀬 弘幸	雨雲 2

立体

筑紫百合子	『規則にさえ従っていれば、幸せになれるって、聞いたんです】
秋山 泰宏	FLOW
古井 彩夏	Movement
寺田 衣里	春日狂想
奥村 直樹	変幻自在な僕
荒木 美由	あるはずのしかく
川原 めい	出生
岩崎 綾乃	sit side by side
米澤 初実	つきあかり
正木絵里子	雨のわっか
三枝 一将	山びこ山
藤澤 英恵	無題
竹村 芳樹	螺旋
球田タカオ	Lovers
椎橋 良太	リリィさんのおっぱい
志村 正之	トーテンポール・干支
清野 融	礎 a work of 0063.0064.0067
安藏 隆朝	ZIGZAG screen
岡本 恵	ugly dress
上浦 佑太	1207 (45° / 90° / 135°)
木下 泰徳	トルソ

平面立体

土方 明司

神奈川県美術展は多くの県展のなかでも、非常にレベルが高く、注目度の高い公募展として知られている。その期待もあって審査に臨んだのだが、残念ながら期待はやや裏切られた。これは僕だけの印象ではなく、他の審査員も感じたことのようである。特に、立体の低迷は皆の話題となった。講評を書くことになった僕に、「次回は奮起を促す」と書いてくれ、と言われた審査員もおられた。応募数にも今年の低迷は表れ、平面で昨年356点→本年291点、立体で昨年62点→54点となっている。応募作品全体のレベルは決して低くない。安定した表現の手際をみせる。しかし、予定調和的なものが多く、際立った個性や、はっとするような感性といったものは感じられなかった。これは神奈川県美術展だけの問題ではなく、日本の美術状況全般にいえることなのだろう。美術が同時代の社会を映す鏡であれば、表現の傾向も保守的、内向きにならざるを得ない。しかし、であれば、原点を振り返り、内省的な観照を推し進めるチャンスでもある。ただ元気が良いことだけが革新的表現ではないのだから。内面に深く降り立ち、徹底した自己との対話を通過しなければ優れた作品は生まれない。デジタル社会の圧倒的な広がりと表現メディアの拡散のただなかにあって、今、美術の平面と立体に何かできるのか。この問題意識を是非とも制作の根底に据えて欲しい。

審査過程は以下のとおりである。まず、5人の審査員の挙手による一次審査をおこなった。この結果、5人挙手が14点、4人挙手29点、3人挙手44点。これに保留とした4点を加えた91点を一次審査通過、入選とした。次に賞の選定を二次審査する。審査員全員が挙手した14点をまず対象とした。これに4人が挙手した29点を改めて審査し、3点を賞候補に入れた。議論を白熱させるような問題作も無く、意外なほどスマーズに議事が進んだ。

大賞となった西野由璃子の《永劫》は早くから審査員の注目を集めた。決して目立つ作品ではなく、また表現も未成なところがあるが、模糊とした要素と神経を

張りつめた緊張感がせめぎ合い、際立つ独自の世界をもつ。未知数ながら新しい可能性を示すものとして意見が一致した。これとは対照的に準大賞、佐藤岐夜美の《想像妊娠》は表現の完成度が高く、イメージの洗練度も高く見るものに与えるインパクトも強い。だが、その一方で、どこか表面的で通俗的な印象が拭えなかった。今後さらなる表現内容の深化を期待したい。特選、名村怜の《gravity》、大石雪野の《woman》も同様に完成度の高い作品であり、伝統性と現代性を意識したものとして評価された。しかし今一つ、追及しようとするイメージなり表現の深度が足りなかつたように思う。3名とも、一度底を踏み抜く必要があるのではないか。奨励賞、中西瑛理香《Light Houses》はイメージの方向性は納得できるのだが、まだ表現力がそれに追いつかず、研鑽が待たれる。県立近代美術館賞、箕輪香名子の《treasure hunting 2012-1》はシルクスクリーンの特性をよく生かした作品。小品ながら、忘れない印象を残す作品だ。美術奨学会記念賞、原佳史の《点に向かう線》は手堅い表現で完成度も高いが、いま一つ見るものに訴える力が足りない。はまぎん財団賞、長谷川大の《ひかりのにわ》はその熟練した手わざと、構成力の緊密さで高い評価を得た。県議会議長賞、新恵美佐子の《花》も発想と表現が高い地点で結びついた作品として評価される。

以上のほかにも受賞にふさわしい作品が複数あり、審査の難しさを痛感した。次年度の充実を期待して講評を終える。



大賞

永劫／西野 由璃子

岩絵の具、箔、絹、コラージュ 232 × 126cm

【略歴】 1987年 東京都生まれ

2011年 武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒業

2012年 武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻日本画コース 2年在籍

【展示歴】 2010年 越後妻有大地の祭り 2010夏「線描の悦び—素描と日本画の作品を中心としてー」(田野倉集落古民家)
Eco Shift Taito アートを通して考える地球の未来 「線描再考－Reconsider Drawing－」
(MAKII MASARU FINE ARTS)

2011年 第34回東京五美術大学連合卒業修了制作展 (国立新美術館)
武蔵野美術大学日本画学科卒業制作選抜作品展 (コート・ギャラリー国立)
第75回記念新制作展 (国立新美術館)



準大賞

想像妊娠／佐藤 岐夜美

アルミ板、パネル、塗料、鉛筆、シール 203 × 88cm

【略歴】 1978年 愛知県岡崎市生まれ
2007年 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
2009年 東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究分野修了
2010年 東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究分野研究生修了
現在 横浜美術大学 絵画領域研究室専任助手

【展覧会歴】 2008年 個展／フタバ画廊
2012年 第1回 kawaii+大賞展／青山スパイラルガーデン
2012年 個展／馬喰町 ART+EAT



特選

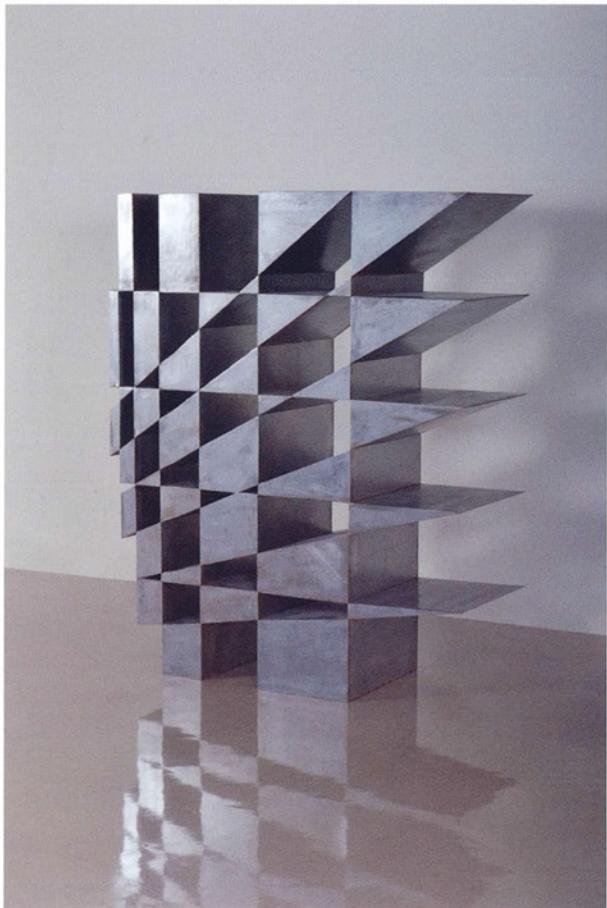
woman ／ 大石 雪野
FRP 70 × 150 × 40cm 30kg



特選

gravity／名村 怜

紙本着彩 150 × 186.6cm



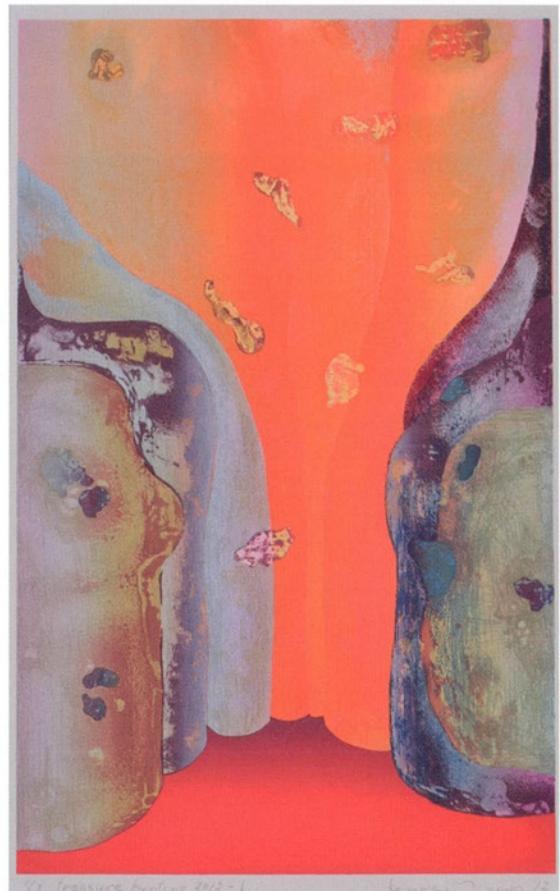
美術奨学会記念賞

点に向かう線／原 佳史
鉄 50 × 130 × 160cm 200kg



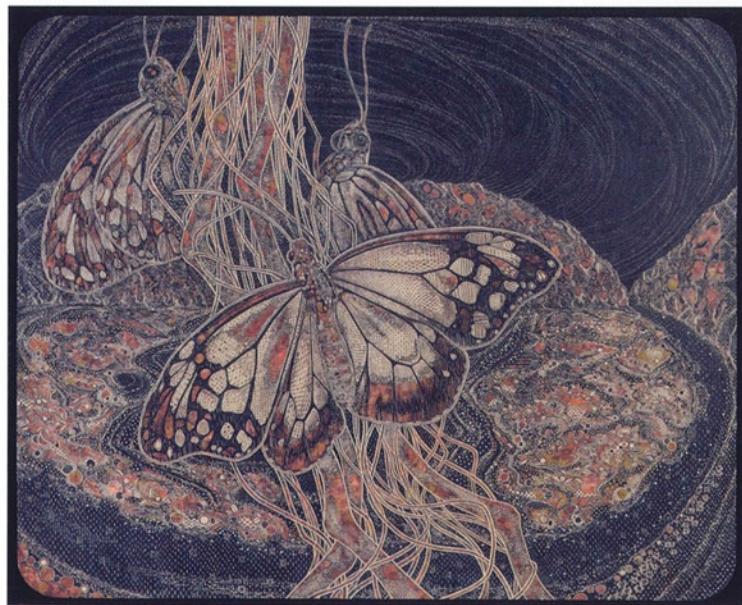
奨励賞

Light Houses／中西 瑛理香
白麻紙、墨、箔、岩絵具 120 × 199.6cm



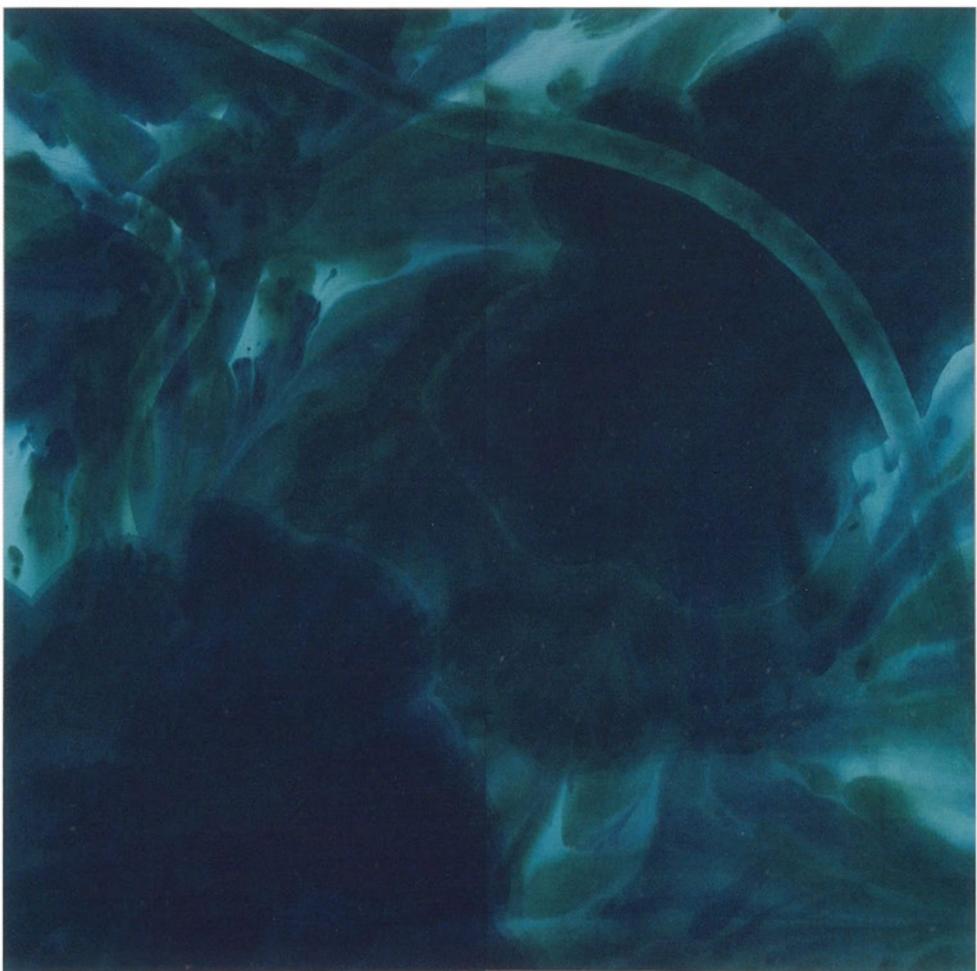
県立近代美術館賞

treasure hunting 2012-1 / 箕輪 香名子
シルクスクリーン 103 × 76cm



はまぎん財団賞

ひかりのにわ / 長谷川 大
シナベニア製パネルにアクリル、岩絵具、マットワニス 169.5 × 207.0cm



県議会議長賞

花／新恵 美佐子
顔料、墨、アクリル 227 × 227cm

出品点数一覧表

部門	工芸	書	写真	1期展小計	平面	立体	2期展小計	合計
人数	113人 (80)	176人 (130)	159人 (54)	448人 (264)	207人 (91)	48人 (23)	255人 (114)	703人 (378)
	143点 (83)	176点 (130)	238点 (54)	557点 (267)	291点 (91)	54点 (23)	345点 (114)	902点 (381)
※()内は入選・入賞者数と入選・入賞点数								

大賞受賞者

第1回 昭和40年度 大森 運夫『九十九里』日本画	第16回 55年度 和久井 Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第2回 41年度 廣瀬 義男『作品I』洋画	第17回 56年度 坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 參平『BODY』工芸
第3回 42年度 垣内 治雄『坐る』彫刻	第18回 57年度 小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第4回 43年度 川村 直子『'69-A・'69-B』洋画	第19回 58年度 井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹聲松影』書
第5回 44年度 山井イク夫『Laby70-1・2』立体造形	第20回 59年度 東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第6回 45年度 伊藤 彰『天涯巡礼』日本画 大久保利園『Straw』工芸 西川 万象『盧子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽん NONSENSE ZONE』写真	第21回 60年度 鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第7回 46年度 中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵐『寒山詩』書 大谷 正夫『飾ミス・ザンダー (フェリス女学院)』写真	第22回 61年度 会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 艸舟『良寛詩』書
第8回 47年度 佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第23回 62年度 高橋 洋子『WAVE (BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句 (原石鼎)』書
第9回 48年度 河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第24回 63年度 三枝 孝司『複製された場所』版画 菅間ゆみい『夢印象』工芸
第10回 49年度 大山 鎮『語り』日本画	第25回 平成元年度 セツ・スズキ『アンタニハウカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第11回 50年度 鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第26回 2年度 山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸
第12回 51年度 泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	第27回 3年度 荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第13回 52年度 井上 麦『黒の女-'77』彫刻	第28回 4年度 たべけんぞう『MAGNETIC FIELD92-2』立体造形 中森 万象『郎士元詩』書
第14回 53年度 坂田 一之『MIRROR』立体造形	
第15回 54年度 前本 利彦『暗い部屋I, II』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書	

第 29 回	5 年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸	第 40 回	16 年度	坂本 友里『ゆめのかず』平面立体 大槻 洋介『孔』工芸 古屋恵美子『田部井花子の歌』書 内藤 秀和『沈黙の機関 (第五福竜丸エンジン)』写真
第 30 回	6 年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笛澤美明詩 菊』書	第 41 回	17 年度	三原奈津子『IN MY CLOSET <melting times>』平面立体 尼子 裕美『EXODUS』工芸 中村 晓雲『毛序詩』書 古郡 和敏『原宿寸描 (2 枚組)』写真
第 31 回	7 年度	R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸	第 42 回	18 年度	田中 幹『COCOON』平面立体 岡本 明子『COBALT BLUE』工芸 宮脇小夜子『秋登宣城謝朓北樓』書 商 家訓『路傍の華 (3 枚組)』写真
第 32 回	8 年度	結城 勉『個々の領域—群像 I』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民 (ネパール)』写真	第 43 回	19 年度	小笠原 森『untitled』平面立体 吉田 晴弥『源の始まり』工芸 矢島 虹周『小倉山』書 市川 雅章『夢売り場』写真
第 33 回	9 年度	劍持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 满『L.8 朝』写真	第 44 回	20 年度	大石 麻央『アダムとイヴ もしくは自分の愛し方』平面立体 吉井こころ『月海一つきうみー』工芸 茂住 菁邨『称讃』書 中山洋之助『将棋三昧 (3 枚組)』写真
第 34 回	10 年度	笹井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『M!! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真	第 45 回	21 年度	高橋 善一『Hornet II』平面立体 丸山 愛『striplay』工芸 松永 光鳳『三十六歌仙』書 永山 悅朗『記憶・パキスタン地震 (3 枚組)』写真
第 35 回	11 年度	川田 祐子『BIO-PANORAMA』平面立体 斎藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稻葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真	第 46 回	22 年度	菅原 有生『くさはら I』平面立体 池田 節子『藍遊び』工芸 二瓶 祥舟『夜行』書 漆原 利大『追憶 (3 枚組)』写真
第 36 回	12 年度	川城 夏未『BALANCE 2000 No.1』平面立体 『BALANCE 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書 吉田 陽子『最後の楽園 (ガラバゴス)』写真	第 47 回	23 年度	古井 彩夏『Continual zone』平面立体 荒 姿寿『Endless flow』工芸 板越 蒼龍『秋興八首内三首』書 長尾 宏『猛暑日 (3 枚組)』写真
第 37 回	13 年度	小林 秀幹『静かな流れの中で』平面立体 羽鳥 恵子『彩泥象嵌鉢』工芸 和田 清泉『花にのる』書 福田 幸子『女瞳私 I,2,3, (NUDE)』写真	第 48 回	24 年度	西野由瑞子『永劫』平面立体 小泉 昌浩『Catastrophe』工芸 喜多 光蓮『万葉のうた』書 米山 好人『山間の街』写真
第 38 回	14 年度	高梨 裕理『水面』平面立体 三輪 博子『河』工芸 柄木 郁子『田中冬二の詩』書 嶺岸 良太『far away—いつか置いてきたもの—I ~ V』写真			
第 39 回	15 年度	井上 達也『植勢 II』平面立体 小田中 藍『おやすみ』とは言っても…』工芸 幡野 恵子『論語』書 金親 敏雄『都市幻影』写真			

第48回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成24年9月5日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 酒井 忠康
副委員長 林 義亮

委員

内田あぐり 本江 邦夫 北澤 憲昭 水沢 勉
富田 康子 関井 一夫 船本 芳雲 石川 芳雲
和田 久士 内山 英明 山崎 威司 中村 英二

審査員

平面立体
内田あぐり 是枝 開 能島 和明 土方 明司
本江 邦夫

工芸

川口 淳 関井 一夫 富田 康子 平野 朱美
松島さくら子

書

麻生 泰久 石原 太流 中西 雅舟 広畑 筑州
船本 芳雲

写真

上野 修 江成 常夫 前田 利昭 光田 由里
和田 久士



有隣堂

画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■伊勢佐木町本店(4F) TEL.(045)261-1231

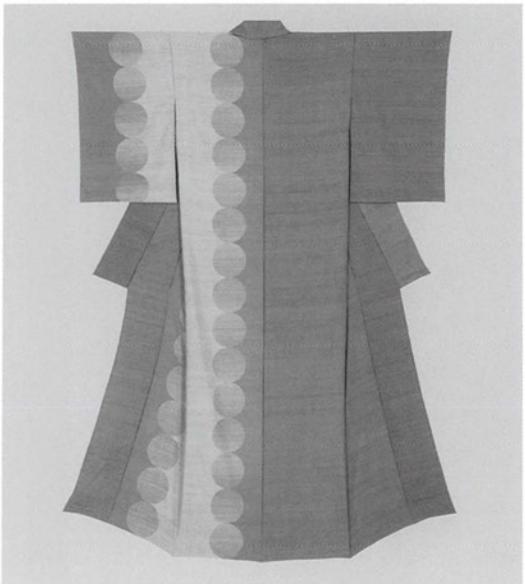
■厚木店(4F) TEL.(046)223-4111

■藤沢店(フジサワ名店ビル4F) TEL.(0466)26-1411

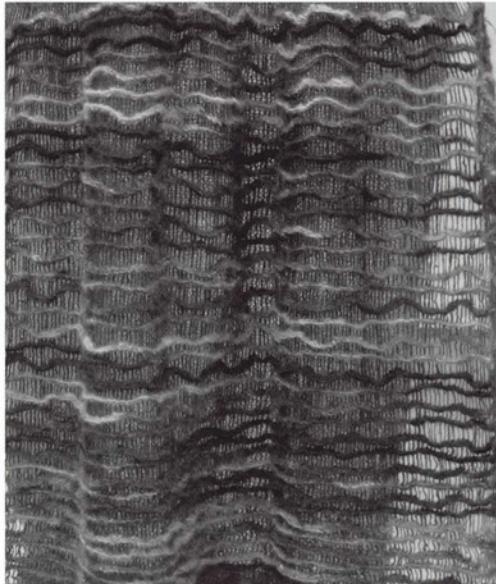
※藤沢店は書道用品のみ取り扱っております。

布の未来を創る

田中千香子
第52回 東日本伝統工芸展 『光彩』



菅間岬
平成23年度 II部 テキスタイル科



資料・願書無料送呈

学校説明会 13:00~15:00 (要申込)
9月22日(土) 10月13日(土) 11月3日(土)
1月19日(土) 2月 2日(土) 3月2日(土)

一日体験入学(要申込)

12月1日(土) 10:00~15:00 ランチ付

工芸染織卒業制作校外展

2013年3月5日(火)~10日(日) 日展会館

テキスタイルデザイン卒業制作校外展

2013年3月22日(金)~24日(日) 六本木アクシス

◆ 学科・コース構成 ◆

きもの総合科 (昼2年 30名)

- ・きもの技術コース
- ・きもの染織コース
- ・きもの stylist コース
- ・舞台衣裳コース

デザイン総合科 (昼2年 40名)

- ・テキスタイルデザインコース
ファッショントレーニング専攻、インテリアデザイン専攻
- ・工芸染織コース
友禅染色専攻、伝統織物専攻

テキスタイル科 (夜2年 30名)

国際情報処理科 (昼2年 30名)



大塚きもの・テキスタイル 専門学校



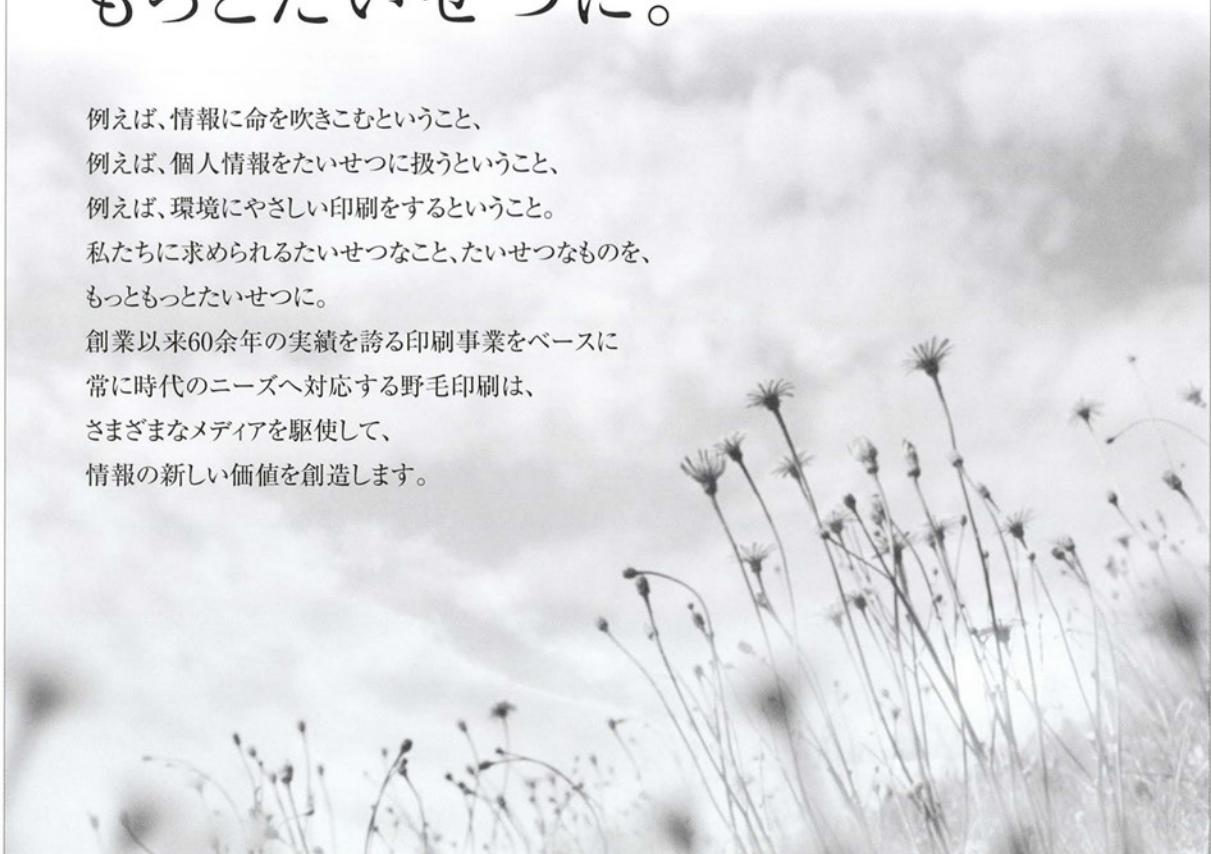
(旧)大塚末子きもの学院、大塚テキスタイルデザイン専門学校、大塚情報処理専門学校
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-1-27 ☎ 03(6278)9361 FAX 03(6681)2714
URL : <http://www.otsukagakuin.ac.jp> E-mail : info@otsukagakuin.ac.jp
ケータイでも資料・願書請求、学校説明会申込可。 <http://www.otsukagakuin.ac.jp/k/>

eco noge は、野毛印刷が推進する
環境保護をテーマとした
活動および事業展開です。



たいせつなものを もっとたいせつに。

例えば、情報に命を吹きこむということ、
例えば、個人情報をたいせつに扱うということ、
例えば、環境にやさしい印刷をするということ。
私たちに求められるたいせつなこと、たいせつなものを、
もっともっとたいせつに。
創業以来60余年の実績を誇る印刷事業をベースに
常に時代のニーズへ対応する野毛印刷は、
さまざまなメディアを駆使して、
情報の新しい価値を創造します。



GREEN PRINTING JPI
F-D10006/F-D10007
営業企画本部／福浦工場

当社営業企画本部・福浦工場は
グリーンプリント認定工場に
認定されました。



水を使わず、水を汚さない
環境にやさしい
水なし印刷を採用しています。



人にも社会にもやさしい製品づくりを
推進し、メディア・ユニバーサル・
デザイン協会に参画



当社は個人情報を保護する企業を示す
「プライバシーマーク」使用の
許諾事業者として認定されています。

プライバシーマーク 使用認定
ISO 14001 9001 認証取得

野毛印刷

営業企画本部／横浜市南区新川町 1-2 ☎232-0027

（045）252-2511

<http://www.noge.co.jp>

The 48th Kanagawa Art Exhibition 2012
第48回神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール 事業制作第一課内

〒231-0023 横浜市中区山下町 3-1

TEL. 045-662-5901(代)

写真撮影：株式会社菊屋写真工房

印刷：株式会社野毛印刷社

発行：2012年9月5日



VOC
FREE

